

# 2023年度の学部学生数 263.3万人で過去最多！

## 女子占有率は45.7%で過去最高

旺文社 教育情報センター 2023年10月31日

2023年度の学校基本調査(速報)が公開された。昨年度までの傾向と同様に、今年度も大学の学部生は増加し、過去最多の人数を記録した。女子学生の比率もわずかながらも上昇が見られた。一方、短大生は大幅に減少した。

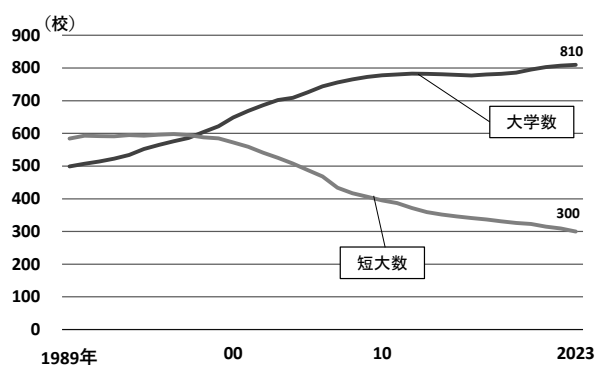
本稿では大学・短大の学校数、学生数などについて分析するとともに、合わせて、受験生数の予測も掲載した。

## ◎「学校基本調査」

・学校教育行政に必要な基本的事項を明らかにすることを目的として、1948年度(昭和23年度)から毎年実施されている。幼稚園・小学校・中学校・高校・特別支援学校・専修学校・大学・短大など全学校を対象として学校数、在学者数、入学者数、卒業生数、入学の状況・卒業後の状況、教員数などを調査。

・今年度の調査結果「速報」による公表事項は、学校数・在学者数・教員数にとどまった。2020～2022年同様となった。卒業後の状況など全項目の集計結果は、12月に確定値として公表予定。

## 大学数、短大数の推移



(校数)				
1989年	合計	国立	公立	私立
大学	499	96	39	364
短大	584	41	53	490



2023年	合計	国立	公立	私立
大学	810	86	102	622
短大	300	0	15	285

## 今年も大学数は微増、短大数は減少

2023年度の大学数は810校である。昨年度の807校から微増した。過去最多の校数である。国立大学の数は変化なし(ただし2024年度秋を目途に東京医科歯科大学と東京工業大学の統合が予定されている)。公立大学は1校増加。そして私立大学は2校増加した。

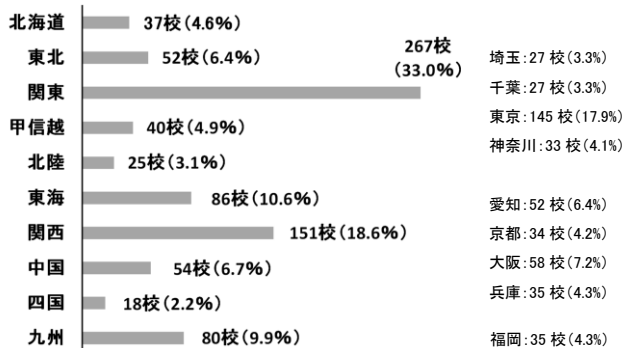
短大数は300校である。昨年度から公立が1校増加し、私立が10校減少した。短大数は1996年の598校をピークに、1997年以降、27年連続で減少が続いている。校数が減少した背景には、少子化や四年制大学に進学する学生の増加がある。短大の苦境があらわれている。

※大学に大学院大学を含む。 ※学生募集停止の大学・短大も正規の廃止手続きが完了していない場合は含む。 ※通信教育のみを行う大学・短大は除く。

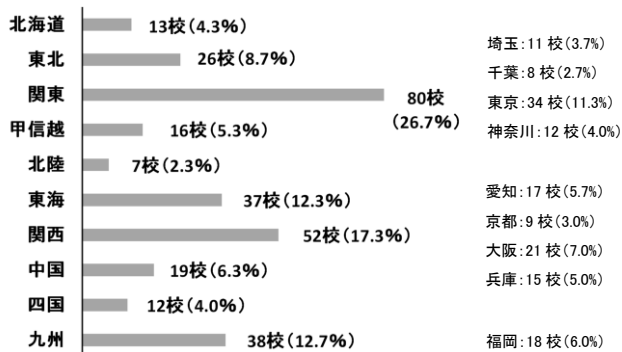
## 2023年度 大学・短大のエリア別の設置状況

## 大都市圏に集中する大学。 なかでも東京は突出

エリア別大学数(全810校)



エリア別短大数(全300校)



大学数を都道府県別に見てみると、大都市圏に多い。東京が最多で145校(17.9%)。東京だけでほぼ関西と同数である。次に大阪58校(7.2%)、愛知52校(6.4%)となっている。以下、北海道、兵庫と福岡が同数、京都、神奈川、埼玉と千葉が同数と続く。一都三県を合計すると232校で、全体の30%近くが集中している。

短大も大都市圏に多い傾向があるものの、大学ほどは偏っていない。とはいえ、関東は昨年度の85校から80校に数を減らしたが、全体の26.7%を占める。最も校数が多いのはやはり東京で34校(11.3%)、次に大阪21校(7.0%)、福岡18校(6.0%)となっている。以下、愛知、兵庫、北海道、神奈川、埼玉と岐阜が同数と続く。

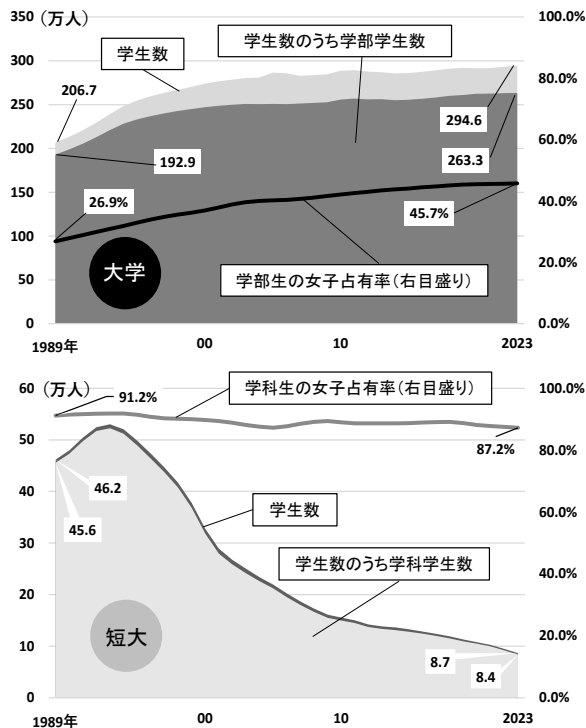
※エリア・都道府県は、大学・短大の本部所在地による。  
 ※大学に大学院大学を含む。  
 ※学生募集停止の大学・短大も正規の廃止手続きが完了していない場合は含む。  
 ※通信教育のみを行う大学・短大は除く。

## 大学・短大の学生数 & 女子占有率の推移

### 学部生は過去最多の一方、 短大生は大幅減

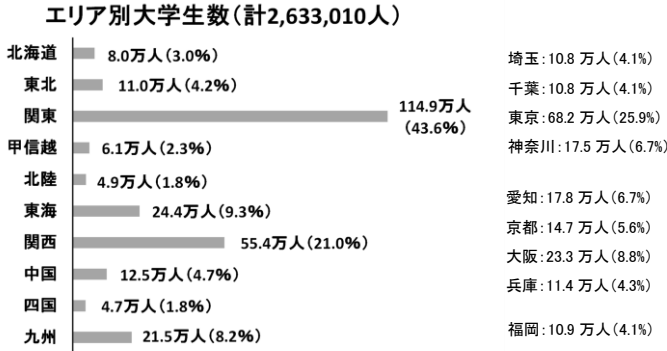
大学の学部学生数は昨年から約800人増加し、263.3万人。昨年度に続き、今年度も過去最多の人数だった。学部学生数は増える傾向が続いている。女子学生の比率もわずかに上がり、45.7%。これも過去最高の比率である。設置者別の内訳は国立大学43.1万人、公立大学14.6万人、私立大学205.6万人である。短大の学科生数は8.4万人。昨年度から8千人以上も減少した。

※学生数には大学院生(大学の場合)、別科・専攻科の学生、聴講生等を含む。  
 ※通信教育の学生は含まない。

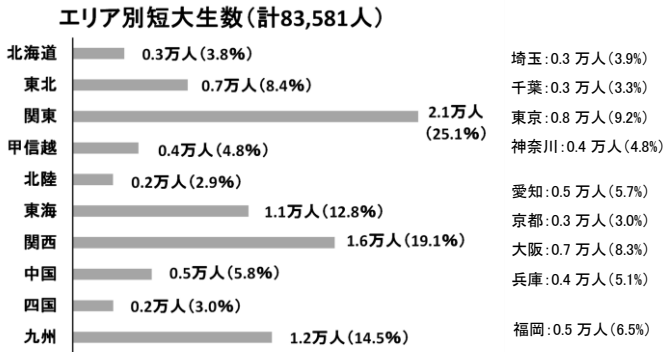


**2023年度 大学(学部)、短大(学科)の  
エリア別の学生数**

**大学生の4割は首都圏に。  
きわだつ集中**



大学の設置状況と同様、学生も関東、関西、東海といった大都市圏に集中している。なかでも東京の学生数は68.2万人で、日本の大学生の4分の1強を占める。一都三県の大学数が全体の28.6%であるのに対して、学生数は全体の40.8%を占める。規模の大きな大学が一都三県に集中していることを物語っている。



なお、昨年から学生が増えたのは、20県。東京(3.7千人)、大阪(2.4千人)、神奈川(2.1千人)、京都(1.5千人)が千人超の規模で増加した一方、27県で減少。多くは、数百人単位で減少した。

短大生は大学と比べれば、多少分散傾向が見られるが、やはり東京が最多で7,700人、次は大阪が6,900人。以下、福岡、愛知、兵庫、神奈川、埼玉、北海道の順である。

※エリア・都道府県は、大学の学部、短大の学科所在地による。  
※通信教育の学生は含まない。

ここまで「学校基本調査」速報に基づいて大学数や学生数を示した。これとは別に、2023年4月の学生募集を実施した大学に関して、大学数や学部・学科数、新設学科の傾向、学問分野別の設置状況などに関する分析を、2023年8月に旺文社教育情報センターから配信している。[こちらの記事](#)も参照していただきたい。

**2024年入試での大学受験生数は62.4万人と予測**

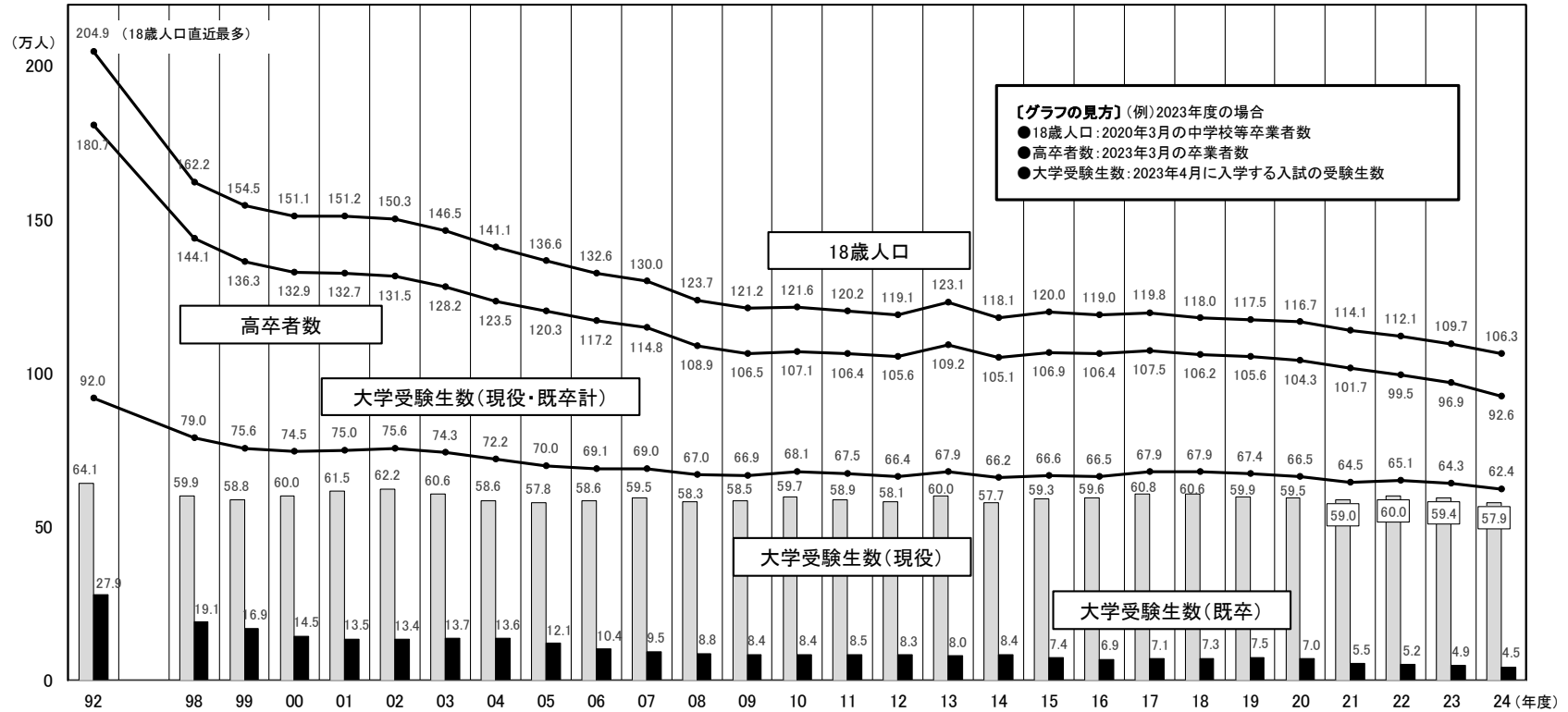
最後に、「学校基本調査」や入試結果などを基に、次ページに18歳人口、高卒者数、大学受験生数の推移とともに次年度の大学受験生数予測をグラフで示した。18歳人口の減少や大学現役志願率の動向、既卒生の減少などを踏まえ、旺文社教育情報センターでは、2024年入試の受験生数は62.4万人と予測した(対前年3.0%減)。

(2023.10 今村)

次ページに「18歳人口&高卒者数&大学受験生数 推移」グラフを掲載

# 18歳人口 & 高卒者数 & 大学受験生数 推移

(株)旺文社 教育情報センター  
2023年9月



大学現役志願率(%)	35.5	41.6	43.1	45.1	46.4	47.3	47.4	48.1	50.0	51.8	53.5	54.9	55.7	55.4	55.0	54.9	54.9	55.5	56.0	56.6	57.1	56.8	57.0	58.0	60.3	61.3	62.5	
大学現役入学率(%)	54.2	71.2	74.8	77.3	77.3	76.4	76.8	78.4	81.8	83.6	85.0	85.9	86.1	86.0	86.1	86.6	86.3	87.5	88.2	88.1	87.6	87.1	88.0	89.7	91.3	91.8	92.5	93.5

【注】文科省「学校基本調査」より算出。2022年以前は実数、2023年以降は旺文社予測。「18歳人口」…3年前の中学校卒業生数、中等教育学校前期課程修了者数、義務教育学校卒業生数の合計。「高卒者数」…高校卒業生数、中等教育学校後期課程修了者数(いずれも全日制、定時制)の合計。通信制は含まない。「大学受験生数」…高認(大検)合格者は含まない。「大学現役志願率」…新規高卒者における大学受験生の割合。「大学現役入学率」…大学現役受験生における大学入学者の割合。